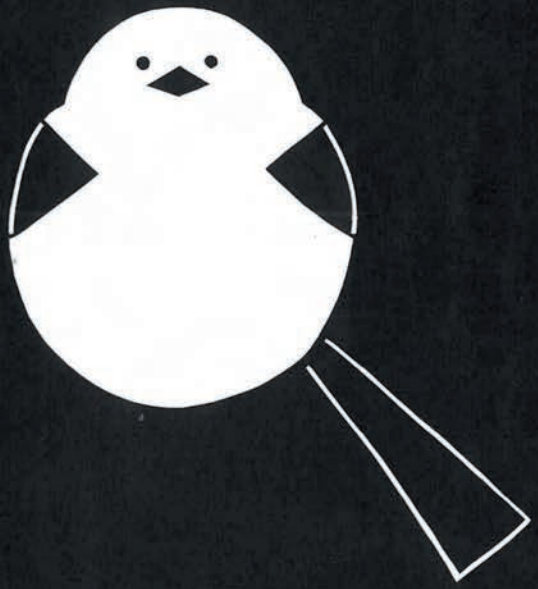
てんごく天国のまど

文(ぶん)/絵(え)・くさの あずみ

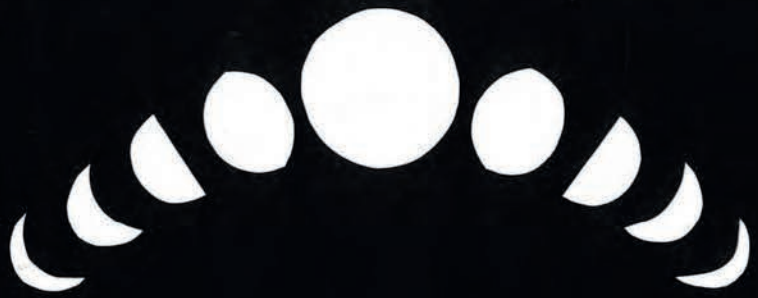
まんまる　ふんわり　白(しろ)いまる

「ぼくに　そっくり!」
シマエナガくんが　さけびました。
「あれれ、でも少(すこ)しちがう。」



シマエナガくんのような
くろい羽(はね)や　おっぽは　ありません。

そらが　くらくなったときに　であうことができる“まる”。
小さくなったり、大きくなったり、
すがたを　かえながら　あらわれます。



ぱたぱた　ぴょん
ぱたぱた　ぴょんぴょん
すーいすい

がんばって　とんでみても、
なかなか　ちかづくことが　できません。

「オマエさん、
あの白くて　まるいのを　おいかけてるのかい？」

シマエナガくんに　声をかけてきたのは、
ふさふさ　りっぱな毛なみの
キタキツネさん。

キタキツネさんが　いいました。

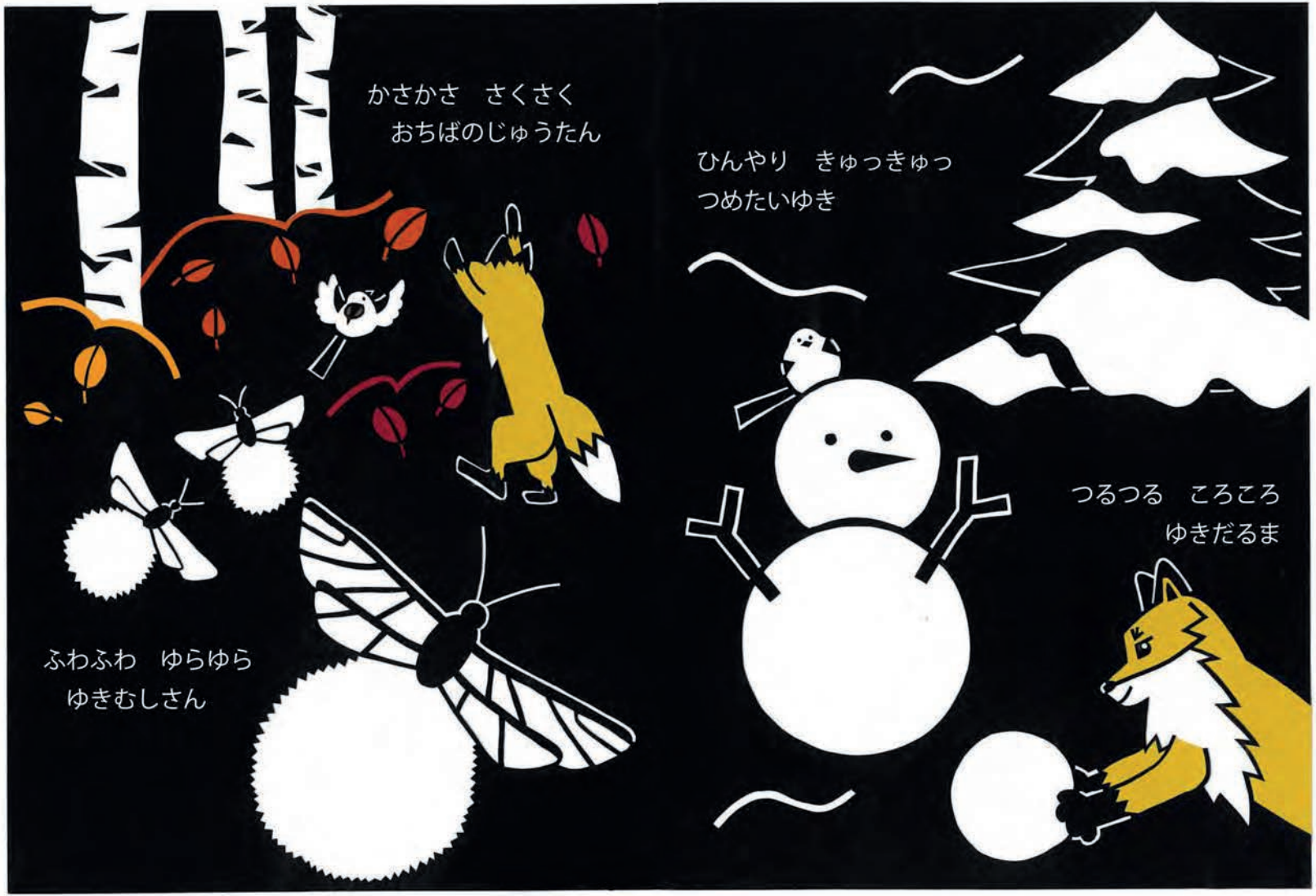
「"あれ"は　すばしっこいぞー！
あしに　じしんのある　オレさまでも、
まだ　つかまえたことがない。」

もう少しのところで、
するするりと　にげられてしまうそうです。

「オレさまは　"あれ"が　きになって　しょうがない。
　オマエさん、つかまえるのを　てつだってくれないか？」
ギタキツネさんは　しんけんな　まなざしで
シマエナガくんを　みつめました。

「もちろんさ！」 シマエナガくんが　こたえました。
「いっしょに　"あれ"を
　　つかまえよう！」

こうして、
シマエナガくんとキタキツネさんの
"白いまる"を　つかまえる　たびが　はじまりました。


かさかさ　さくさく
おちばのじゅうたん
ふわふわ　ゆらゆら
ゆきむしさん
ひんやり　きゅっきゅっ
つめたいゆき
つるつる　ころころ
ゆきだるま

ひょっこり　もぞもぞ
ふきのとう
さわさわ　ざわざわ
ゆれる木々
ちょろちょろ　ちょろり
ゆきどけみず
ぐるぐる　ごろごろ
ばっかんロール
たくさんの　"まる"に　であいました。

ともだちも　たくさん　できました。

ダンスが　すてきな
タンチョウ
　　カップル

くりくり　おめめの
エゾモモンガちゃん

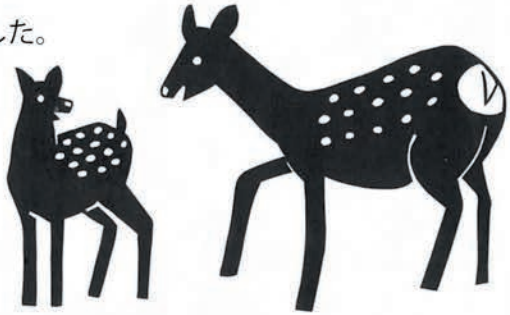
ものしり　シマフクロウさんは、
あの"白いまる"が
"お月さまだと　おしえてくれました。

かおが　ハートの
エゾフクロウくん

大きくて　かっこいい
オジロワシさん

くいしんぼうの
　　ヒグマどん

なかよし　エゾシカおやこは、どんなときでも　いっしょ。
そばには　お月さまもいて、はなれることが　ないんだと
ふしぎそうに
はなしてくれました。



とっても　はずかしがりやな
エゾナキウサギくん

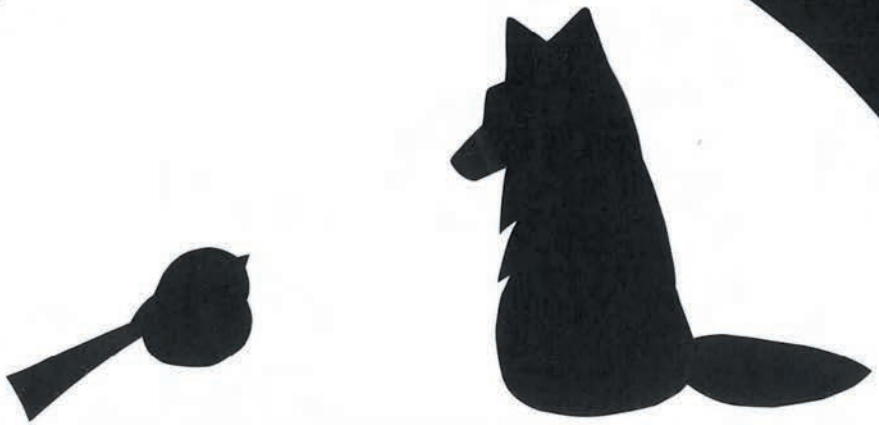
きのみ　だいすき
エゾリスちゃん

みんな、こせい　ゆたかで　たいせつな　ともだちです。

シマエナガくんとキタキツネさんが　たびを　はじめて
１ねんがたった　あるよるのこと。
キタキツネさんが　いいました。
「ここらで　おわかれだ。
　ここからさきは　オレさまひとりで　いってくる。」
とつぜんのことで
シマエナガくんは　おどろきながら　たずねました。
「どこへいくの？」
キタキツネさんは　おちついたこえで　こたえました。
「天国(てんごく)って　ところだな。」
「それなら　ぼくも　いっしょに　いくよ！
　いままでだって そうじゃないか！」
シマエナガくんのことばに、
キタキツネさんは　くびを
よこにふりました。

「オマエさんには　まだ　はやい。」
キタキツネさんは　つづけて　いいました。
「いっぱい　たべて　はしって　ねて、
　いっぱい　うたって　おどって　あそんで、
　いっぱい　わらって　ないて、
　たくさんの　きもちを　しったとき、
　天国(てんごく)においでって　よばれるんだ。
　オレさまにも　そのときが　きたってわけさ。
　オマエさんとの　たびは　いいものだった。」

シマエナガくんとキタキツネさんの　あいだを、
ひゅーと　かわいた　かぜが
とおりぬけました。



キタキツネさんは
めをほそめて　にーっとわらうと、
また　あおう　といって、
シマエナガくんを
ぎゅっと　だきしめました。

そのまま　めをとじ、
ふかい　ねむりに　つきました。

まんまる　大(おお)きな
まんげつの　よるのことでした。

天国(てんごく)は　ずっとずっと　うえのほう、
そらの　とおいところに　あるんですって。

そこは　ぽかぽか　きらきら　うつくしいところ。
なんにもないけど　なんでもある
あんしん　できるところ。

キタキツネさんは　そこへ　たびだちました。

まっくらなそらに　ぽっかり　あいた "白いまる"
いつも　ちかくで
みまもってくれている　お月さまを　みながら、
シマエナガくんは　おもいました。
「お月さまは　天国へ　たびだった　ひとたちが
　ぼくらを　のぞいている　まど　なんだ！」

だいじょうぶかな、元気にしてるかなと　きになって、
みにきているのかも　しれません。
シマエナガくんは　そらを　みあげて、
お月さまに　むかって　はなしかけました。
「しんぱい　しないで。だいじょうぶだよ。
　元気に　やってるよ！」

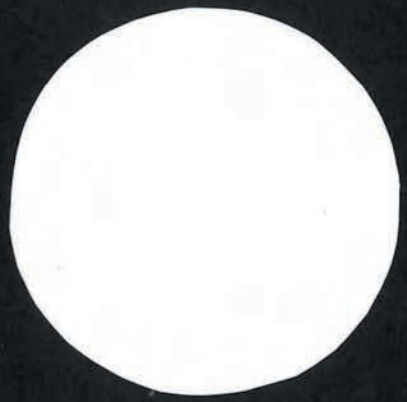
すると、シマエナガくんには
にっこりと　わらった　キタキツネさんが
みえた　きがしました。

ぐっと　おもいが　こみあげてきて、
シマエナガくんの　こころには、
じんわりと　ゆうきが　わいてきました。
なんだか　あたたかい　きもちになりました。

シマエナガくんは　むねに　てをあて、
ほほえみました。

そらには　こうこうとした　お月さま。

まんまる　ふんわり　白いまる



こころに　ひかりを　ともして　かがやきます。